

2008年10月、JICAは、技術協力、有償資金協力、無償資金協力を二元的に担う新しい援助機関として生まれ変わります。このコーナーでは、新JICAの事業や体制を分かりやすく解説します。

## 国際協力を日本の文化に

地球温暖化、食料不足、原油価格の高騰。これまで遠く感じられてきた問題が私たち日本人の生活にも大きく影響を及ぼし、地球規模の課題に対する一人一人の関心が高まっている。さらに、フェアトレード商品の購入など、日常生活の中で気軽に行動する人も増えており、市民の間に、国際協力の機運の高まりを感じさせる。

そんな市民社会の盛り上がりと時期を同じくして発足する新JICAは、「国際協力を日本の文化に」という理念のもと、市民が主役の国際協力を促進する方針を打ち出している。世界銀行に次ぐ規模の援助機関となり、多様化する開発途上国からのニーズに応えるには、「市民」の力が不可欠となっている。市民社会の機運の高まりにはJICAの貢献も少なからずある。市民参加協力事業を2002年から強化し、

## LESSON 05

# 市民が主役の国際協力を応援!

地球規模の課題が深刻化している今、市民一人一人の国際協力が一層求められている。新JICAはこれまで以上に、市民が主役の国際協力を応援していく。

開発教育支援や国際協力の担い手の育成、草の根技術協力事業といった「市民が国際協力に参加する」ためのメニューを充実させてきた。その結果、開発教育支援や地球規模の開設などによって、国際協力に関心を持つ市民が増加。「国際協力出前講座」を通じて年間約20万人の生徒がJICAボランティア・OB・OGなどの体験談に触れており、開発課題への理解が深まり、国際協力の支持層の拡大につながっている。

同時に、NGOや大学、自治体の強みを生かした協力が増えたことで、地域住民への直接支援や、日本独自の開発経験・ノウハウを活用した協力を通じて途上国の開発に貢献してきた。

こうした市民の力と連携し、国際協力を日本の文化にしていこうことを新JICAは目指していく。

日本のNGO、大学、自治体などが独自の技術や経験を生かした国際協力をJICAが支援する制度。

あなたの関心度に合わせて参加メニューを選ぼう! 詳しくは <http://www.jica.go.jp/partner>

### STEP1 途上国に関心がある

途上国の暮らしや地球規模の課題を知りたい人を対象に、各地でイベントやセミナーを開催している。

例えばJICA地球ひろばでは、7月1日から8月31日までの間「地球を守る。未来を守る。」をテーマに、地球温暖化の影響を伝える展示を行った。また、NGOや専門家らを招いたセミナーをシリーズで行い、多くの来館者が環境問題を身近に感じるきっかけづくりとなった。



### STEP2 途上国の課題を理解したい

帰国したJICAボランティアを講師として学校などに派遣する「国際協力出前講座」や国際協力の現場を視察する「教師海外研修」など、途上国の課題を知り、理解する場を提供している。

教師海外研修でカンボジアを訪問した新潟県の中学校教員の小黒淳一さん(現・佐渡市立羽茂中学校)が国際理解教育の一環で現地での体験を生徒たちに伝えた。そして授業で学んだことをテーマに生徒が新潟県国際理解教育推進協議会主催のプレゼンコンテストに応募。2年連続で入賞し、参加者から大きな反響を得た。



プレゼンコンテストで発表する新潟市立上山中学校の生徒たち

### STEP3 国際協力を始めたい

市民と国際協力をつなぐ“窓”として各都道府県に「国際協力推進員」を配置するほか、NGO研修などの市民の国際協力をサポートするプログラムを提供している。

理数科教師の協力隊OBで、現在秋田県の国際協力推進員である樋口和彦さんは、地元のラジオ番組のパーソナリティとして、番組に協力隊OB・OGを招き、面白いエピソードを交えた体験談を市民に発信。「協力隊OBに会ってみたい」というリスナーからの便りを受け、ゲスト出演したOBとリスナーの対面にまで発展させている。さらに、自身も「ウガンダのひくち先生」として科学の魅力を伝える地元のテレビ番組に出演中。



秋田商業高校の生徒たちが出前講座で学んだことを市民に発表。本にまとめた。収益の一部でアフリカスタディーツアーを計画している

### STEP4 海外で国際協力をしたい

青年海外協力隊・シニア海外ボランティアや草の根技術協力事業などを通じ、海外で国際協力を行う機会を提供し、市民の活動の促進を図っている。

例えば草の根技術協力事業では、カンボジアの子どもたちの知識・思考力・想像力を養うため、(社)シャンティ国際ボランティア会が図書館の普及活動を実施。教材が作成され、活動を推進するトレーナーが育成されたほか、この事業の成果を受け、図書館の普及活動がカンボジア教育省の正式カリキュラムに導入されることが検討されている。



図書館活動の一環で紙芝居が行われた

### STEP5 国際協力の経験を国内で共有したい

国際協力の現場経験を、国内で伝え、そして多文化共生や日本の地域おこしに生かす人が増えている。

青年海外協力隊OGの江口由希子さん。帰国後の長男出産をきっかけに、「不安が多い子育て。言葉や文化、習慣が違う外国人ならなおさら」と支援を思い立ち、仲間の協力隊OB・OGとともに、外国人親子が参加できる子育てサロンを名古屋で開いている。それを知ってほかにも地元でサロンを開く人が現れ、その輪は広がっている。

また、グアテマラの住民と村おこしに取り組んだ青年海外協力隊OBの河内毅さん。帰国後、新潟県中越地震の被災集落で、地域復興活動に携わった。そこで「地域おこしや災害復興には外部の協力が不可欠」と実感。現在は(社)中越防災安全推進機構に所属し、協力隊の経験を生かしながら被災集落の自立のための住民の組織化や意識改革などに取り組んでいる。



江口さんが開く子育てサロン。子どもたちを遊ばせながら親たちが情報交換や悩みを話し合う場になっている

新JICAレッスン

about NEW JICA